

平成 31 年 2 月 6 日

細見 正明^{※1}丸茂 克美^{※2}西垣 誠^{※3}

空気測定結果及び地下水質測定結果（濃度確認・全体確認モニタリング結果）について

1. 対象

平成 30 年 11 月、12 月、平成 31 年 1 月採取分

2. 空気測定結果について

- ①ベンゼンの測定結果については、建物 1 階部分は $0.0005 \sim 0.0010 \text{mg/m}^3$ 、地上は $0.0006 \sim 0.0012 \text{mg/m}^3$ 、地下ピット内は $0.0005 \sim 0.0009 \text{mg/m}^3$ であった。
- ②シアン、水銀の測定結果については、いずれも不検出であった。
- ③また、ベンゼンの大気環境基準（国が定めた人の健康を保護する上で維持することが望ましい基準）は、「1 年平均値が 0.003mg/m^3 以下であること」であり、建物 1 階部分については、昨年 2 月からの 1 年平均値によると青果棟 0.0011mg/m^3 、水産仲卸売場棟、加工パッケージ棟、水産卸売場棟及び補助 315 号線連絡通路内はいずれも 0.0010mg/m^3 となっており、地上については、同じく昨年 2 月からの年平均値によると 5 街区 0.0011mg/m^3 、6 街区 0.0010mg/m^3 、7 街区 0.0009mg/m^3 、補助 315 号線連絡通路部 0.0009mg/m^3 となっている。一方、地下ピット内については、測定を開始した昨年 7 月からの平均値によると青果棟 0.0005mg/m^3 、水産仲卸売場棟 0.0007mg/m^3 、加工パッケージ棟 0.0008mg/m^3 、水産卸売場棟 0.0006mg/m^3 となっており、いずれも大気環境基準に対し、適合していることが確認できる。

以上の結果から、建物 1 階部分、地上、地下ピット内のいずれの空気についても、前回の調査結果（11 月 19 日公表）と同様に、科学的な視点から安全は確保された状態にあると考えられる。

3. 地下水質モニタリング調査結果

前回の調査結果（11 月 19 日公表）と比べ、濃度が上昇傾向を示した地点や低下傾向を示した地点も存在しているが、全体的に見れば、大きく汚染状況が変化した傾向は確認できない。

4. 情報共有等について

測定結果については、東京都において公表を行った後、「土壌汚染対策工事と地下水管理に関する協議会」で報告の上、関係者間での情報共有及び意見交換を行う予定である。

以上